

ニホンジカの採食影響に対する土壌保全手法のスケール別整理

対策の対象地	対象スケール	対策方法	対策実行のための検討要素	対策実行に当たって必要なもの	緊急対策事業		モデル事業	本格事業	備考
					H17検討状況	H18取組み案	H19以降の課題	H20から	
堂平の施工地の一地点 (ブナ林域)	小 地点(点)	対象地点について、工法を選択して施工する	植生保護柵、リター捕捉、木製筋工等、どれを採用するか。	植生・リター・筋工の現場条件による適正、標準的構造図	試験施工	H17施工結果に基づく改良型施工、モニタリング継続、手法提案	斜面全体での土壌保全対策指針や工法の歩掛等の作成。モニタリングと工法見直しの継続	東丹沢ブナ林域は本格実施とモニタリング継続による見直し。西丹沢及び人工林・二次林域を対象とした検討・試行開始。	* ガリーそのものの対策は、拡大の実態把握とある程度のメカニズム解明を行ってから検討及び対策実行。
上堂平の施工斜面一体 (ブナ林域)	斜面全体(面)	斜面全体の面的土壌保全を効率的に図るため、工法組合せ・配置を選択し施工する。	どこにどのように保護柵を設置し、どこでリターを留めるか、など。	面的土壌保全のための施設配置の考え方	未実施	試験施工、モニタリング、手法提案			
塩水川流域 (ブナ・人工林等・溪流)	大 流域 (面と線の集合)	土壌保全とその原因であるシカ・植生対策について、流域内の対策の空間配置と実行手順を要因相互の関連性に基づいて決定し各対策を実行する。	土壌・シカ・植生の相互の関連性を考慮し全体として土壌保全実現させる事業実行の仕方(いつ、どこで、何を)	対策マップ、実行手順、順応的実行方法	流域総合保全モデル、ガイドライン検討	継続して検討し提案	(実行計画策定)	塩水川流域での対策実行。他流域への応用。	* 崩壊地の侵食対策は、別途現状整理・問題抽出してから検討。